



香取市合併 20 周年記念

フォトコンテスト ～未来に残したい香取市～



テーマは、『未来に残したい香取市』

一番好きな香取市の風景、活気あふれる行事や人々の営みなど、

撮影者がこれからも未来に残したいと感じる、

香取市の魅力が詰まった写真を募集しました。

多くの皆さまから素敵な作品をご応募いただき、

その中から厳選した 25 点をフォトブックにまとめました。

No.1『水郷嫁入り舟』こぐまの兄弟さん

No.14『青と緑と』こまさん

No.2『Attractive Koedo Katori Sawara』
iwapt さん

No.15『積みわら』fuumon さん

No.3『黎明を迎えた水郷三都』遠藤明子さん

No.16『稲刈りを終えた田んぼを渡る風になびく
ススキ』fuumon さん

No.4『満月と白鳥の群れ』KUROSU さん

No.17『熱を纏う』齋藤裕一朗さん

No.5『古の春』平野昌子さん

No.18『朱の門』齋藤裕一朗さん

No.6『未来へつなぐ光の道』うるじろさん

No.19『水鏡桜景』齋藤裕一朗さん

No.7『伝統の舞』KIYOSHI さん

No.20『光たちの絵画』YS さん

No.8『谷津田のパッチワーク』みやちゃんさん

No.21『私の好きな田んぼ』サラさん

No.9『小江戸さわら朝風情』みやちゃんさん

No.22『日本地図』ゆいまる。さん

No.10『町並み、人波、山車祭り』みやちゃんさん

No.23『水郷佐原を彩る山車巡行』mar さん

No.11『「雅」と「勇猛果敢」』春夏秋冬さん

No.24『舞の華』mar さん

No.12『水郷のダイヤモンド富士』MORITO さん

No.25『佐原の夜は終わらない』ラムコ FC さん

No.13『水上の春宵』大塚裕子さん



「水郷嫁入り舟」

～佐原あやめパーク～

こぐまの兄弟さん

コメント 水郷佐原と言えば、あやめですね～6月の風物詩ですね。

講評 手前に広がる菖蒲の色彩が、まるで二人を祝福する天然の花道のように、見ているこちらまで幸せな気持ちになりますね。かつて水路が生活道路だった頃の、嫁入り舟という伝統文化がこの美しい景観の中で再現されています。



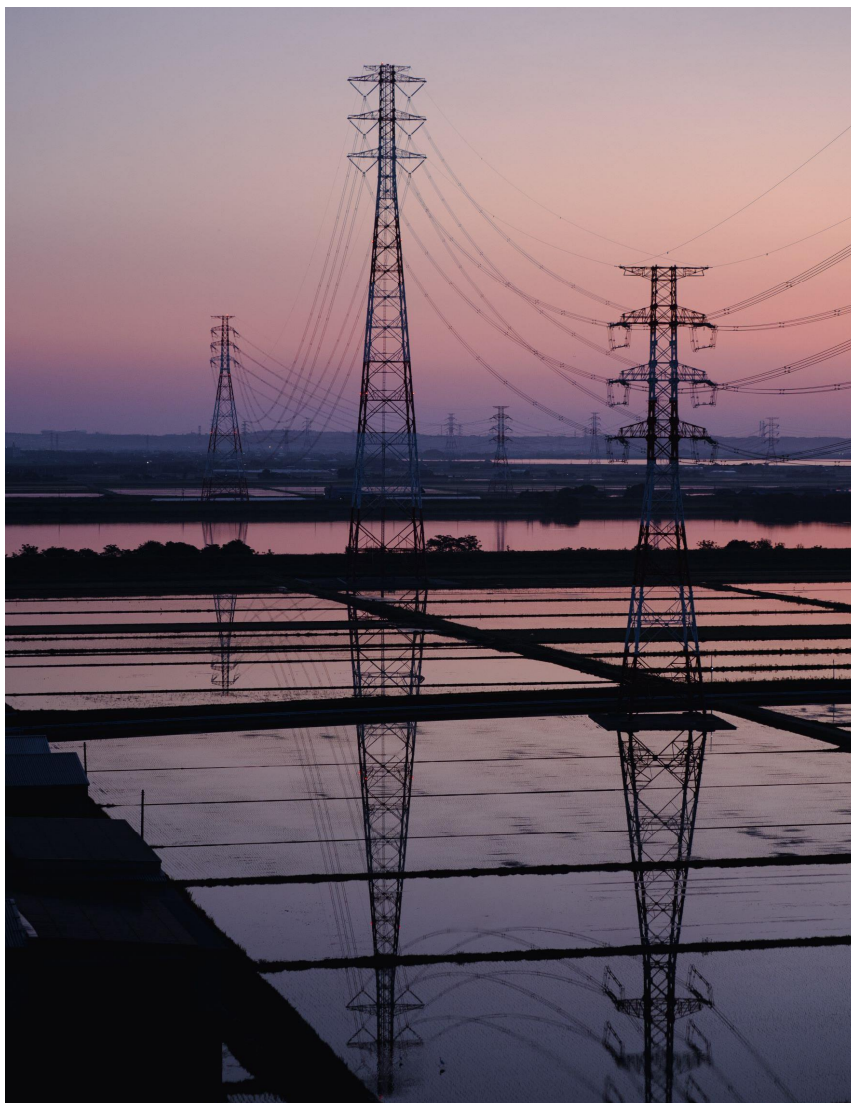
「Attractive Koedo Katori Sawara」

～佐原の小野川～

iwaptさん

コメント 香取市の令和7年度おためし移住体験をさせていただきました。毎晩散歩して、心を穏やかにしてくれた夜の佐原の街並みです。

講評 江戸時代から続く商家の蔵造りや柳並木、そして小野川。観光地としての華やかさだけでなく、移住体験という生活者目線だからこそ出会えた一枚だと思います。手前の花をあえて入れることで、夜の暗さの中に彩りと奥行きが生まれ、バランスの取れた構図になっています。



「黎明を迎えた水郷三都」

～東関東自動車道佐原PA上り～

遠藤明子さん

コメント 佐原PA上りには、ちば眺望100景にも選定された展望台があります。利根川を眼下に、雄大な水郷地帯が広がっています。私のおすすめは薄暮の頃です。

講評 今も続く豊かな農業の息吹が、水面に映る近代的な鉄塔と見事に調和しています。水面に鏡のように映り込む鉄塔が美しく、「薄暮の頃がおすすめ」という言葉通り、足を運んでシャッターチャンスを持った遠藤さんの情熱が伝わってきます。



「満月と白鳥の群れ」

～与田浦、十二橋駅付近～

KUROSUさん

コメント 十二橋付近の水田に白鳥が採食のため飛来していました。この年は何日も足を運んで、白鳥を撮影しましたが、満月と列車が良いタイミングで入りました。白鳥が飛来するような自然が未来まで続くようにと願いました。

講評 与田浦や十二橋駅周辺は、今も豊かな自然が残る香取の原風景とも言える場所で、この付近は沢山の白鳥や、水鳥が餌を求めて飛来する水鳥の宝庫となっています。満月、列車、そして白鳥という3つの主役を完璧なバランスで画面に収めた構成力が見事です。何度も足を運ばれた撮影者の情熱があったからこそ、この奇跡のような瞬間が形になったのだと思います。



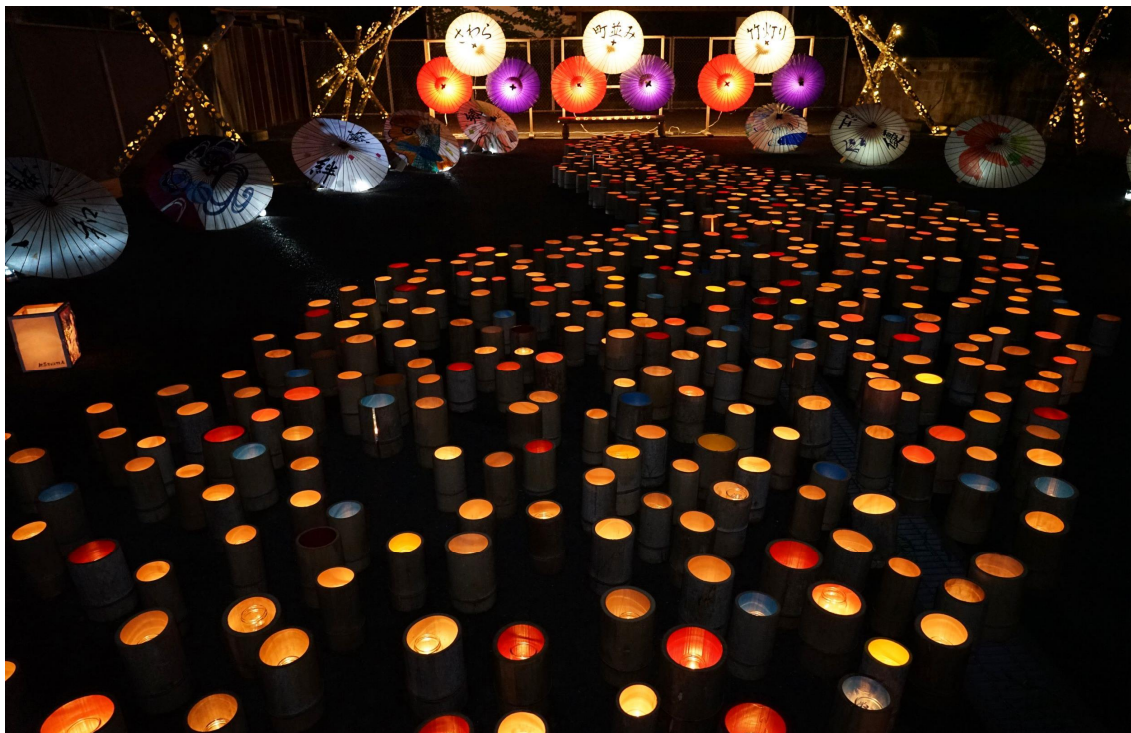
「古の春」

～小野川～

平野昌子さん

コメント 「さわら雛舟春祭り」での一コマです。きらびやかな雛衣装をまとったお内裏様とお雛様の一行が、雅楽の音が響く中、水上をパレードをします。古を偲ぶ優雅な春の行事です。

講評 重要伝統的建造物群保存地区としての古い町並みが、小野川に浮かぶ赤い舟と非常にマッチしています。「古を偲ぶ」という温かなコメントにある通り、地域全体でこの文化を守り、楽しんでいる様子がわかります。



「未来へつなぐ光の道」

～小野川 忠敬橋付近～

うるじろさん

コメント 無数の竹灯りが静かな夜に温かな光を放ち、色とりどりの和傘が幻想的な情景を彩ります。この光の道が、香取市の未来へ希望をつなぐ象徴となれればと願っています。

講評 伝統的な建造物が並ぶ佐原の観光名所も、夜の竹灯りイベントでは普段とは違う幻想的な表情を見せてくれます。傘の色鮮やかな配置と、足元に広がる光の川を捉えた構図が、写真に奥行を与えています。



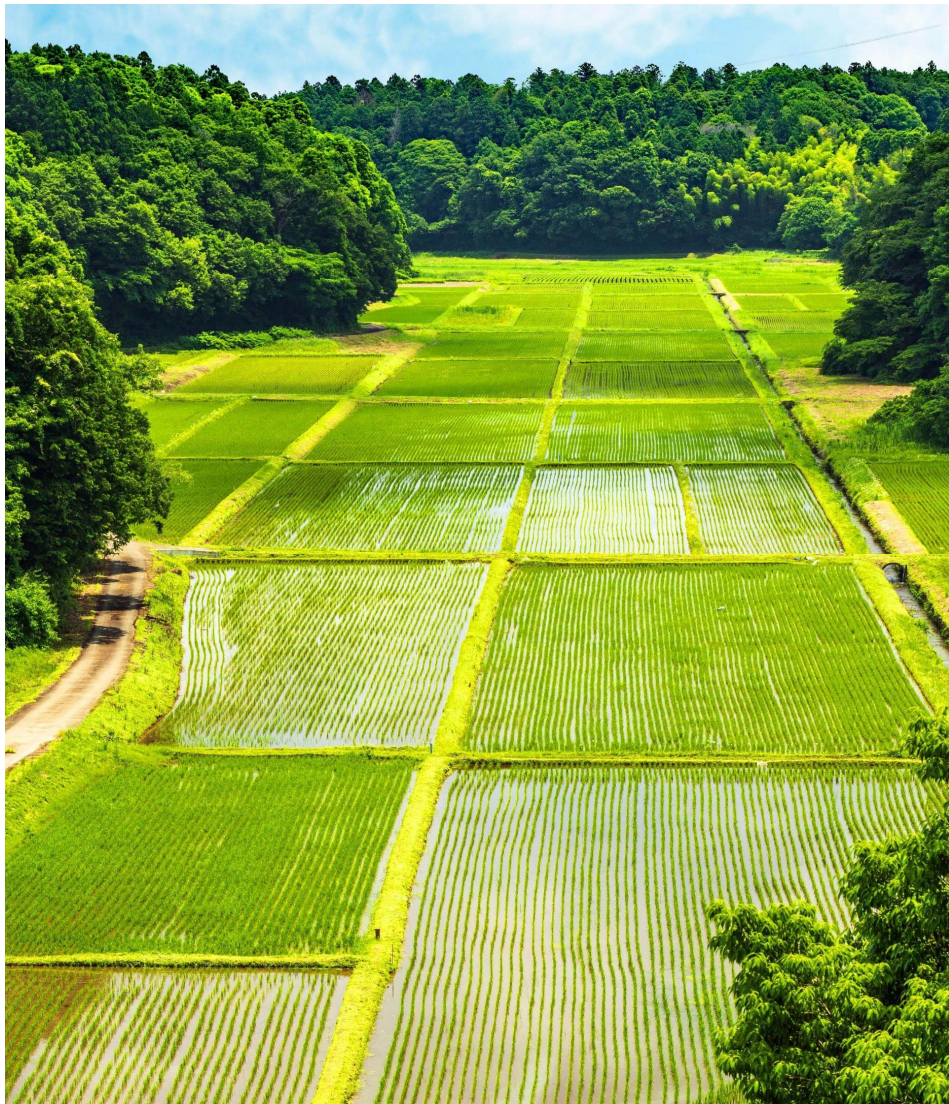
「伝統の舞」

～木内大神（小見川）～

KIYOSHIさん

コメント 毎年、3月3日に行われる木内神楽。千葉県の下総地区は12神座の里神楽が各所で行われるが、中でも木内神楽は力強い舞で好きな里神楽です。写真は演目「八幡」です。

講評 力強く弓を構える演者の凛とした姿から、古式に則り演舞する面の姿が迫力があり、とても印象的です。雛祭りの日に舞われる「八幡」の力強い演目に、現地の賑わいと文化の深さを感じます。永く地域に密着した行事として大切にしていきたいです。



「谷津田のパッチワーク」

～香取市沢～

みやちゃんさん

コメント 道の駅にきた折に「沢中白清水橋」まで足を伸ばしてみた。橋の
中程から見下ろせば、南側は見事なパッチワーク……。谷津田の多
くが後継者不足から耕作放棄地と化している中、この地のこの美
しい景観は、地域住民の熱意と努力の賜であり、これぞ後世に引き継
いでいくべき香取の里山景観だと、改めて思いを深めた。

講評 まるで丁寧に織られたパッチワークのように、鮮やかな緑が美しい
調和をもたらしています。「沢中白清水橋」から見下ろすこの景色
には、観光地の華やかさとは異なる、日常に根付いた静かな美しさ
が広がっています。コメントにある通り、後継者不足という厳しい
現実に向き合う地域の方々の「熱意」があるからこそ、このような
輝くような緑が保たれているものと思います。単なる風景写真では
なく、地域への深い愛情を感じる作品です。



「小江戸さわら朝風情」

～香取市佐原～

みやちゃんさん

コメント 柳並木が美しい小野川沿いは、江戸情緒あふれるノスタルジックな雰囲気醸し出している。特に、朝の静かな時間帯に散歩するのは格別で、まるで、映画のオープンセットの中を歩いているような雰囲気を味わえる。

講評 静かな川の流れと共に商家の佇まいは今尚多くの人々をひきつけ商都佐原の観光に大きな役目を果たしています。静かな川面に映る町並みの永い歴史を感じさせる写真となりました。柳に隠れた商家が一寸残念な所です。



「町並み、人波、山車祭り」

～香取市佐原～

みやちゃんさん

コメント 山車祭りは、地域社会の絆を育み、経済効果をもたらす貴重な文化資源であるが、一方で、後継者不足や資金難という課題に直面しているのが現状で、当地域も例外ではないという。関係者の情熱と地域内外からの多様な支援を得ることにより、写真のような盛況な山車祭りが、いつまでも続くことを願ってやみません。

講評 佐原っ子が胸踊る大祭は、華やかさが魅力です。しかしその陰には、伝統を守るための多くのご苦労があることと思います。職人たちが手がけた彫刻や飾りを大切に保存しながら、これからも多くの人に祭りの楽しさを届けてください。画面はもう少し下の部分を入れと賑やかさが表現出来たかなと思います。



「「雅」と「勇猛果敢」」

～佐原の大祭会場～

春夏秋冬さん

コメント お祭りのハイライト「ののじ廻し」。必死の形相の力強い若衆と、佐原囃子を奏でる演奏者の優雅な雰囲気、この対比を捉えてみました。

講評 「ののじ廻し」という祭りのハイライトに焦点を当て、重厚な山車を操る若衆の力強い躍動感と、対照的に涼やかな表情で音を奏でる演奏者、このタイミングの静と動を上手く対比できています。



「水郷のダイヤモンド富士」

～水郷大橋～

MORITOさん

コメント 冬水に映る、光の記憶。大橋は語る、空の深さと一瞬の軌跡。あやめ園周辺の水田は広大で、冬には170km先の富士山もよく見える。ダイヤモンド富士のタイミングが幸いにも快晴だった。富士山が地元のシンボル水郷大橋の先に見えた。冬季に湛水する田んぼが夕焼けに真っ赤に染まっていた。

講評 地元のシンボルである水郷大橋と、遠くそびえる富士山が織りなす「ダイヤモンド富士」。夕日に染まる水田の輝きに、思わず息を呑みました。黄金色の温かな光が全体から溢れ出しています。



「水上の春宵」

～小野川～

大塚 裕子さん

コメント 朱の覆いをまとった舟が静かに水面を滑り、優雅に咲く桜と雅やかな装束が春の宵に映える。人々の期待と伝統が交錯するこの瞬間を切り取り、時代を超えて続く祈りと祝祭の景色を写し出しました。

講評 小野川沿いの歴史ある町並みに朱色の船、雅な装束が映え、華やかな瞬間を水平に美しく捉えられています。コメントにある「人々の期待」という言葉通り、構図の中から観客の活気が伝わってきます。



「青と緑と」

～千葉県香取市佐原ハ～

こまさん

コメント 子どもの頃とは違い、田んぼと空しかない風景に癒される

講評 水平線を画面中央よりやや下に配置したことで、空の広大さがより強調されていますね。写真からは、抜けるような青空の高さと、稲が呼吸しているような瑞々しい空気感が伝わってきます。子どもの目には当たり前すぎて素通りしていた景色が、大人になるとこれほどまでに贅沢で、心安らぐものに映るのですね。



「積みわら」

～久保の田んぼ～

fuumonさん

コメント 田んぼのある風景は美しい。機械化されて稲架掛けや積みわらは過去のものになったと思っていたら、まだここに存在していた。うれしくなってシャッターを切った。

講評 写真からは、どこか懐かしい雰囲気漂います。特に、規則正しく並ぶ積みわらが奥へと続く構図は、積みわらへの視線を自然に導き、「うれしくなってシャッターを切った」という撮影者の高揚感が伝わってきます。



「稲刈りを終えた田んぼを渡る風になびくススキ」

～黒部川河畔(小見)～

fuumonさん

コメント 田んぼのある風景は美しい。黒部川河畔をサイクリングしているとススキが風に揺れて、その先に二番穂の田んぼが見える。

講評 秋晴れの澄んだ空の下、銀色のススキがさらさらと音を立てて揺れる、心地よい風の温度感がこちらまで伝わってくる一枚です。特に、ススキの穂一本一本が繊細に描写され、美しく撮れています。「二番穂が見える」というコメントから、収穫後の田んぼが持つ生命力と、季節が移ろう情景が見事に切り取られています。あえてススキを主役にし、遠景に田んぼを配した構図のバランスが秀逸で、この場所の新たな魅力を教えてくれました。



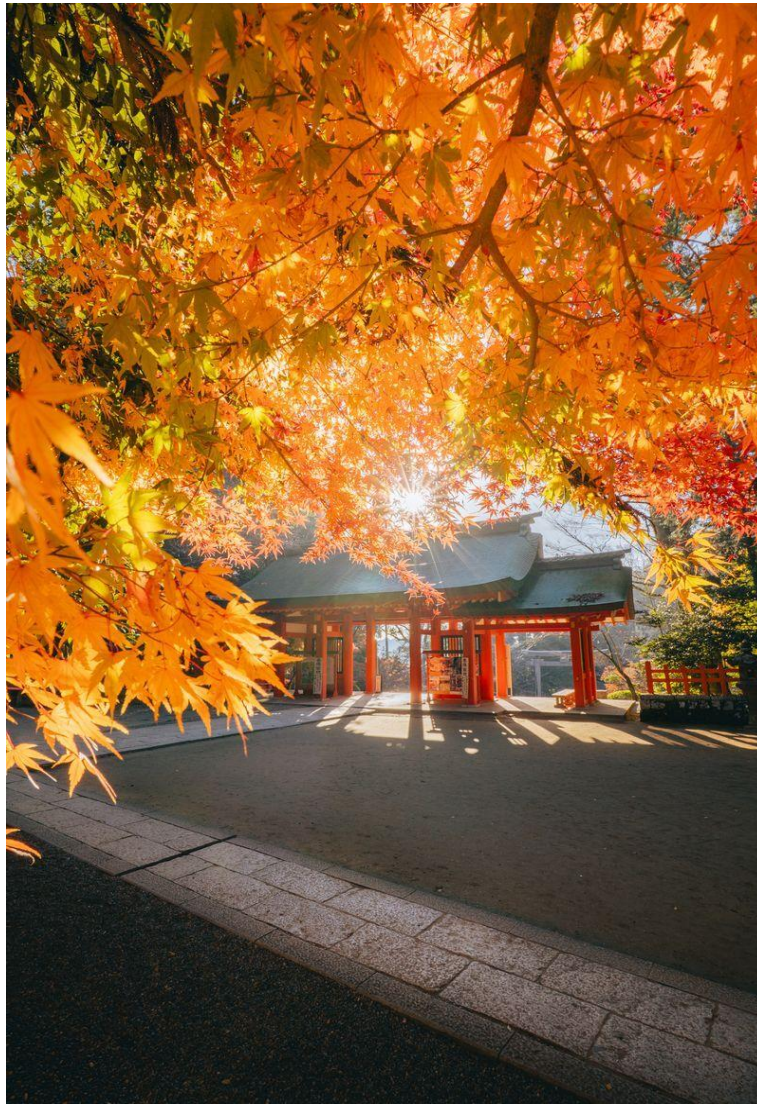
「熱を纏う」

～佐原の大祭夏 小野川沿い～

齋藤 裕一朗さん

コメント 小野川沿いの道を、勢いよく進む佐原の山車。一人ひとりの息遣いや熱気が、夜の空気を震わせていました。超広角で間近から捉えることで、迫力と一体感を強調しています。人がつなぎ、未来へ受け継がれていく香取市の祭りの力を感じた瞬間です。

講評 ユネスコ無形文化遺産に登録された「佐原の山車行事」は地域の誇りであり、歴史的な風景に溶け込む巨大な山車が、観客のすぐそばを通り抜ける臨場感は、この場所ならではの観光の醍醐味ですね。



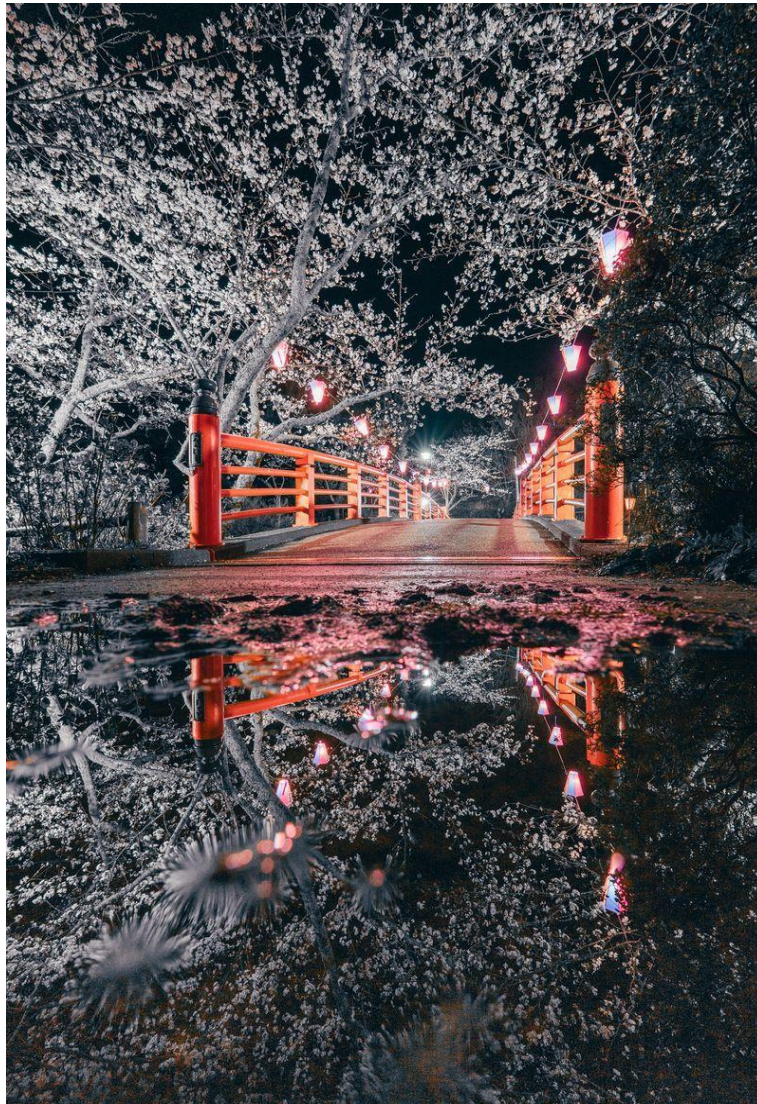
「朱の門」

～香取神宮 総門～

齋藤 裕一郎さん

コメント 香取神宮の総門を、紅葉とともに捉えました。超広角レンズを用いることで紅葉の広がり強調し、光条を入れることで神域らしい厳かさを表現しています。変わらず人々を迎え続ける、未来に残したい香取市の風景です。

講評 晩秋の柔らかな光が紅葉を透かし、朱色が映える楼門。香取神宮の秋を美しいグラデーションで見事に捉えた一枚です。この写真は、事前に丹念に調査し、絶好のタイミングを狙った撮影によるものと思われます。難しい下部の石畳を巧みに取り込み、洗練された構成力が光る作品となっています。超広角レンズを活用することで紅葉の広がりを際立たせ、見事な光条を捉えた撮影技術が、神域の厳かな雰囲気さをさらに引き立てています。この風景を次世代に伝えたいという撮影者の真摯な想いが、写真を通じて静かに響く一枚です。



「水鏡桜景」

～小見川城山公園～

齋藤 裕一郎さん

コメント 雨上がりの夜、小見川城山公園で静かに佇む桜と赤橋に出会いました。カメラを水面に近づけると、そこにはもう一つの景色が映り込み、現実と重なる幻想的な世界が広がっていました。そっと浮かび上がる赤橋と桜は、この場所が大切に守られてきた時間そのもの。未来へ残したい香取市の春の記憶です。

講評 カメラを水面に近づけたローアングルが見事で、上下対称の幻想的な世界を作り出しています。雨上がりという、一見すると撮影には不向きな条件を「もう一つの景色」に出会うチャンスへと変えた、撮影者の感性と粘り強さがこの見事な構図を生んだのでしょう。



「光たちの絵画」

～小見川花火会場～

YSさん

コメント 100年以上の長き歴史を感じさせる、様々な花火が織りなす光の絵画は、ため息の出るような美しさです。ひとつとして同じシーンはなく、また瞬間を逃すまいと、まばたきするのも惜しくなります。

講評 お写真を拝見した瞬間、ズドンと体に響く大きな打ち上げ音が聞こえるようです。「光たちの絵画」というタイトルの通り、夜空をキャンバスに見立て、特に、あえて花火をフレームから見切れさせて配置した構図が秀逸です。これにより、写真の外側にもさらに大きな光が広がっているようなスケール感が生み出されています。100年以上の歴史を誇る「水郷おみがわ花火大会」の重みと、一瞬の美しさを逃したくないという撮影者の情熱が、この迫力ある切り取り方に凝縮されています。



「私の好きな田んぼ」

～橘堰付近の田んぼ～

サラさん

コメント 私は春先になるといつも、田んぼに水が張られるのを楽しみにしています。田んぼの水面には青空や夕日が映り、かたりの空の広さをいっそう感じさせてくださいすきです。

講評 春の柔らかな風と、湿り気を帯びた土の香りが漂ってくるような心地よさを感じます。撮影者が「空の広さをいっそう感じさせてくれる」と語るとおり、足元に広がるもう一つの空が、日常の何気ない美しさを再発見させてくれました。



「日本地図」

～小野川側～

ゆいまる。さん

コメント 佐原と言えば伊能忠敬。

講評 人物を左側に配し、家屋を十分に取り入れることで安定感が感じられる素晴らしい仕上がりです。ただ、少しハイライトやコントラストが強めに感じられる点が気になりますが、それが作品全体に与える影響については好みや解釈の違いもあるかもしれません。



「水郷佐原を彩る山車巡行」

～佐原・小野川沿い～

marさん

コメント 写真は佐原の大祭・夏祭りの山車巡行。名工の人形師達が手がけた大人形を載せた豪華な山車が、江戸情緒漂う小野川沿いを進む様子に圧倒されました。町が育んできた文化と誇りを強く感じました。

講評 撮影場所の小野川周辺は、かつて利根川水運で栄えた歴史を持ち、現在でも「生きている歴史」を肌で感じられる魅力的な場所です。ユネスコ無形文化遺産に登録された佐原の山車行事、重要伝統的建造物群保存地区に選定された町並みが美しく切り取られています。「町が育んできた文化と誇り」を感じ取ったという撮影者の視点で、伝統を守り続ける人々の背中を優しく映し出しています。



「舞の華」

～佐原～

marさん

コメント 写真は佐原の大祭・秋祭りの山車巡行。伝統の佐原囃子に合わせて舞う女性たちの手踊りは見事で、その華麗な舞は祭りに華を添えていました。若連の皆さんの晴れやかな表情も印象的で、その素晴らしい瞬間を収めることができました。

講評 第一印象で目を引くのは、なんといっても踊り手の皆さんの晴れやかな表情。一斉に開かれた扇子がまるで大輪の華が咲いたかのような空気感を生んでいます。



「佐原の夜は終わらない」

～さわら町屋館～

ラムコFCさん

コメント 佐原の大祭 秋祭り 千秋楽 祭りは最高潮 最後の小野川を背に 町内へと戻ります。時刻は九時半 "終わりがたくない" 誰もがその気持ちを胸に 惜しみながら山車を曳いています。提灯の明かりが灯り より一層 美しい山車、写真手前の 綱を引っ張る女性の笑顔が本当に楽しそうで美しい、、この景色は100年後も残ってほしいと願う。

講評 重要伝統的建造物群保存地区の町並みと山車が夜間に撮影されたことで、より際立った存在感を放っています。さらに、暖色系の色調で統一された美しい仕上がり、温かみのある雰囲気を生み出しています。

合併 20 周年記念フォトコンテスト作品集

発行日 令和 8（2026）年 3 月 29 日

編 集 香取市

許可なく転載・複製することを禁止します。